

いしずえ

青年部通信 礎 No.10



- 日本保育協会青年部活動を振り返って(副部長 藤崎貴英)
- 特集
 - ・ 視察研修会「竜南保育園」……静岡市竜南 1-19-15
 - ・ 新規採用予定職員研修会に参加して
- めきうち保育園訪問
 - ・ 若草明德保育園……猿島町逆井 3,503
 - ・ 岩井保育園……岩井市岩井 2,720-8

日本保育協会青年部活動を振り返って

日本保育協会 青年部 保育研究委員会委員長
茨城県民間保育協議会 青年部副部長
北浦保育園 副園長 **藤崎 貴英**

私の日保青年部での活動は計三期六年になります。一期目は「経営研究委員会」に所属し、二期目は自ら志願して「保育研究委員会」へ移り、三期目の今期に至ります。

今期の保育研究委員会では、まず保育の基本に立ち返り議論を進める事とし、『本来あるべき理想の子育て環境とはどのようなものなのか。そして我々が保育園として提供すべき子育て環境、それと連携されるべき家庭での子育て環境とは何か』をベースに研究・議論していく事を委員会方針としました。方針決定の理由として、何かと話題に上る幼保一元化問題があり、その中で我々は幼稚園との単なる比較だけをするのでは無く、保育園を一つの機能として捉え、その存在意義から考え直してみようという発想からでした。その方針を踏まえ、議論の中心を「保育の質を高めるためには」とし、下記の三本柱を立てました。

- 一、「子どもの発達を保障する」
- 一、「組織としての保育園の確立」
- 一、「対人コミュニケーションの確立」

この三点は全てが相互にリンクをしながら進まなければならない、どれが欠けてもいけない、そういう意味での三本柱です。

それらを踏まえ、「保育園と家庭とのパートナーシップ」と「生活コミュニティの中の保育園」についても議論して参りました。これらは、今後、保育園が行うべく子育て支援を考えた時に必ずや必要となってくる課題であると確信します。

さて、今期は制度面において様々な流れがありました。そのような中、強く感じた事があります。それはこれまでの護送船団方式が如何にナンセンスなものであったか。今後国主導から地方主導へと移行しつつある時代において、現在（いま）だからこそ保育園本来の存在意義を示さねばならないと思います。そしてこの保育界が今ここでキチンと襟を正して、行政に対してものを言えるようにしたいと考えます。

今後この保育界がどのような方向に向かうのか不確実ですが、どのように制度が

変わろうとも目の前にいる子ども達の育ちやその子らが暮らす家庭やその地域、それら全てのものを、我々保育現場の者達が同じ視線において真摯な姿勢で捉え、考える事ができるのであれば何も恐れる事は無いように思います。

最後に、今期の委員会活動を振り返ってみますと、誰が見ても当たり前だろうと思える内容のものとなっています。しかし、その当たり前の事が普段の保育の中で当たり前に行っているのでしょうか？ それを我々委員会メンバーも含めた全ての方々に再確認していただきたいが如く研究活動してきました。

任期中、東京・大阪を中心に計 20 回の委員会を開催しました。そして今期の締めくくりとして他の二研究委員会、「経営研究」、「情報研究」との合同報告書を作成する運びとなっています。皆様が参考にできるものにすべく鋭意執筆中ですのでうしばらくお待ち下さい。

☆平成16年度 日本保育協会青年部 茨城県出向者名簿☆

- ・北浦保育園 副園長 藤崎貴英
(日本保育協会青年部 副部長 兼 経営委員会 担当副部長)
- ・清心保育園 副園長 清水利春 (経営委員会 副委員長)
- ・納場保育園 事務員 萱場祐友 (保育委員会 委員)
- ・日の出保育園 副園長 塙 信晋 (情報委員会 委員)
- ・御前山保育園 主任保育士 川又朋子 (研修委員会 委員)

日本保育協会 青年部は、随時募集しております。興味を持たれた方は、青年部メンバーまでご連絡下さい。

青年部視察研修に参加して

境いすみ保育園々長 菊地 弘子

平成 15 年 11 月 14 日、15 日の 2 日間にわたる青年部視察研修に参加させていただきました。メインはなんといっても静岡市の社会福祉法人あゆみ会が運営する施設のひとつで、平成 13 年 4 月から公設民営として運営を開始された竜南保育園(定員 120 名)でした。午後 4 時という忙しい時間におじゃましたにもかかわらず『太田嶋信之』園長先生以下スタッフの皆さんに笑顔で迎えていただきました。到着すると最初に 2 階建ての大きな建物が目に飛び込んできました。自由広場、玄関ホールなど余裕のある空間と最新調理機器の完備された調理室。保育室も一つ一つ個性があって色の使い方などの斬新さに「はっ」とさせられました。保育園はかわいらしい色や形でなんていうのは既成概念でしかないようです。お部屋の仕切りパネルが可動式のものだったのも「Good idea」と思いました。



鉄筋コンクリート 2 階建ての立派な建物

施設・設備についてはすべて公設で、できあがってから委託を受けたとのことですが、設計の段階ではノータッチだったため保育士



すてきな色使いの保育室

にとっては使いにくいところもあり、改修が必要な箇所もあったということでした。また今後は計画的に植樹や遊具の整備をしていきたいということでした。児童クラブも併設のため私たちが園を後にする頃には小学生と園児たちが混じ

り合って遊んでいました。安全面での管理が大変ですが、子供たちの環境を少しでも良いものにしようと、運営費の使用制限をうけながらも本当によく頑張っておられると感心してしまいました。また、園長先生の「こどもにとって、地域にとって、頼りになる園になっていきたい。」という言葉が強く心に残りました。



施設の概要を説明中の太田先生

今回、総勢 17 名の参加でしたが、わたしはこれまで青年部の視察研修には日程などの関係でほとんど参加したことがなく、図々しそうに見えてもちょっぴり不安を感じていました。皆さんと一緒に食事や宿泊をしたり、観光もしたりと長い時間を過ごせたことでいろいろなお話をすることができ、エネルギーを分けていただけかなと思っています。この度の研修を企画された研修委員のみなさん、そして参加されたみなさん、大変お世話になりました。

民間保育園新規採用予定職員研修会に参加して

つばさ保育園 副園長 大高明子

去る3月8日、9日の2日間に渡り、茨城県総合福祉会館において民間保育園新規採用職員研修会が開催された。私も準備・進行のスタッフとして参加させていただいたが、各園から多くの新規採用職員が参加しており、保育園関係者のこの研修会に対する関心と期待の高さがうかがえた。

研修第1日目は、午前10時より、民間保育協議会々長である白神章道会長の開会の挨拶で始まり、日本経営教育研究所の吉武寿一氏が「私立園職員の心得」「幼児教育の重要性」について講演された。吉武氏は私立保育園



の一員として、保護者から選ばれる園になるためには何が必要かというテーマを示しその回答として、先ず経営者を中心とし職員の気持ちが1つになっていること。2つ目に職員が社会的常識を持って行動できること。3つ目に、職員全員が子どもの為に努力を惜しまないことが必要であると話された。日頃より、経営者として感じていたことを、新規採用者に分かりやすく話して下さり、これから職員との相互理解を図っていくうえでも大変有意義な内容だと感じた。午後からは、参加者がステージに上がっての基本的な挨拶の練習、電話の対応の仕方、保護者との対応の仕方、また、服装が与える印象の重要性などについて学んだ。その後、平磯保育園々長の川崎誠先生と結城明照保育園々長の清水敏孝先生により「保育の組織について」という演題で保育団体の組織についての説明があり、第1日目の研修を終えた。



第2日目は、前日の講演のレポートを提出してから、みどり保育園々長の大沢若葉先生による「保育の手引き」についての解説、次に、すみれ第2保育園々長の石橋豊美先生による「望ましい保育士のあり方」についてという講演があった。保育現場での1日の流れや、さまざまな注意点の説明、また、受入れ時や降園時の視診の重要性など保護者とのやり取りの中で特に気を付けなければならない事について、実際の例を挙げながら話された。このような現場の園長先生方による講演は、新しく保育者になる参加者にとって、保育の実践の中で大いに役立つことと思う。午後からはスタッフ全員で、参加者が提出したレポートにコメントを書いた。レポートの内容から新採用職員として保育の現場で頑張っているという熱意や意気込みが感じられ、逆に私の方が励まされる思いだった。こうして2日間の研修会を終え、新規採用職員に対して私立保育園の職員になるという事の意味を認識してもらい、園の経営方針や経営状況をいかに理解してもらおうか、という事の重要性を改めて感じた。それとともに、保育園関係者のこの研修会に託す思いも痛感した。最後に、この研修を受講した参加者が各園で活躍することを願って止まない。

めきうち保育園訪問 in 若草明德保育園



素敵な新園舎の前でにこやかな笑顔の新谷園長先生



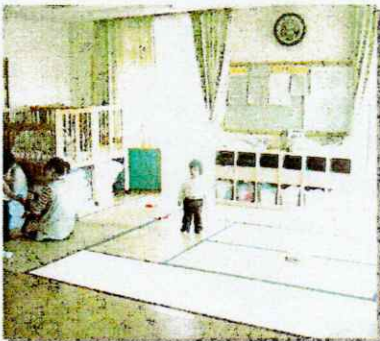
園舎の全景です。



エントランスホール脇に広々とした図書コーナーがあります。



クッション材入りの床材を使用していて、安全に配慮したホールです



ほふく室は畳敷きの部分もあり、近代的な建物の中にも「ホッ」とするスペースがありました。



遊具を置いてもこんなに広々しています。



めきうち保育園訪問 in 岩井保育園



帽子がよく似合う丹保園長先生と中島先生。
園舎は、カナダ産の天然木材に拘った新園舎です。



園内にはたくさんのすてきな絵画が飾られ、子ども達が毎日絵に飾られるような環境をつくっていました。



年長さんのお部屋です。
壁も床も天然無垢材を使用し、環境ホルモン”0”の園舎になっています。



未満児のトイレは円形状にならんでいるのがおもしろいですね。



子育て支援センターとしても使われているホールです。
ホールと保育室の間には、広々としたテラスがありました。

編集後記

青年部(広報委員会)に入会し、いろいろな園にお邪魔させていただきました。その都度、「あっ、これは自分の園には無いな」「足りないな」と感じ、反省することが出来ています。

自己満足になりがちな業界ですが、これからもいろいろな発見をしていけたらと思います。

また、発見したことを広報誌で伝えていきたいと思います。

